

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/11

「リスク・オフ」の動きが広がるか注視

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	リスク回避の圧力にさらされやすい 予想レンジ: 85.10 ~ 87.80 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	→	NZのGDPは地震被害を超えられるか 予想レンジ: 66.10 ~ 68.60 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↓	リスク回避の動きにより上値は重そう 予想レンジ: 11.70 ~ 12.10 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 7/4~8の主な推移



7/4 Monday	豪5月小売売上高は前月比-0.6%と予想(+0.3%)を大きく下回り、同時に発表された豪5月住宅建設許可も前月比-7.9%と予想(-0.5%)を大きく下回った。これらを受け豪ドル売りが強まると、豪ドル/円は86.58円まで下落(①)。その後格付け会社S&Pが「ギリシャ債の借り換え(ロールオーバー)は選択的デフォルトに当たる公算が大きい」との見解を示したことでユーロ/円が急落すると、連れて豪ドル/円も86.45円まで下げた(②)。
7/5 Tuesday	豪準備銀行(RBA)は政策金利を4.75%にて据え置き事を決定した。しかし、その際の声明文で「今年の成長率はこれまでの予想ほど力強くなる事はないだろう」との見通しが伝えられると、市場ではRBAの早期利上げ観測が後退し、豪ドル/円は86.45円まで下落した(③)。
7/6 Wednesday	前日の格付け会社ムーディーズによるポルトガルの格下げ報道が蒸し返され、ポルトガル国債の利回りが急騰した事を背景に、欧州の信用不安が高まり欧州株が軟調に推移すると、リスク回避の動きから豪ドルは売り優勢となった。加えて米6月ISM非製造業景況指数が予想を下回ったことを背景にNYダウ平均が下落すると、豪ドル/円は一時86.28円まで下落した(④)。
7/7 Thursday	豪6月雇用統計では、失業率は4.9%と予想と同じ結果となった。しかし新規雇用者数は常勤雇用者数の大幅な伸びにより、2.34万人増と予想(1.50万人増)を上回ったことから、豪ドル/円は40銭近く急騰した(⑤)。また、米6月ADP全国雇用者数が予想を上回ったことを受けて時間外のNYダウ平均先物が急騰すると、豪ドル/円は87.53円まで上昇した(⑥)。
7/8 Friday	市場では米6月雇用統計に対する期待からドル買い・円売りが先行し、豪ドル/円はこの円売りに連れて、発表前に87.71円の高値をつけた。しかし米6月雇用統計の予想外に弱い結果を受け、ドル/円の急落につれて豪ドル/円も一時86.29円まで下落(⑦)。ただその後、一時150ドル以上下げたNYダウ平均が下げ幅を縮小すると、豪ドル/円は緩やかに値を戻した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることに積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

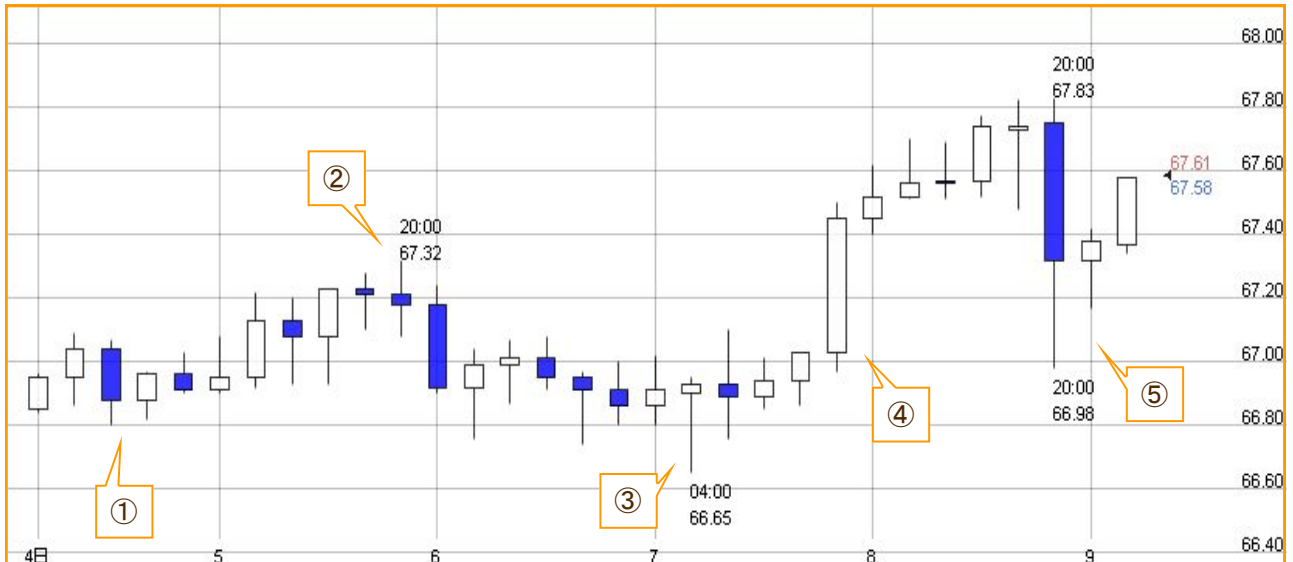
- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

今週の見通し

先週末の米6月雇用統計が予想よりも大幅に弱い内容となり、10日の英紙報道によりギリシャ国債の一部債務再編観測が浮上した。今週はこれらを理由に主要国での株安が予想され、豪ドル/円には下落圧力がかかりやすいと見る。テクニカル面から見ると、直近の安値である86.12円(6/30安値)を下抜ける場合、短期的には下値模索の動きが強まる可能性がある。そのほか、今週から本格化する米企業決算や、13・14両日のバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言にも、注目が集まりそうだ。(川畑)
(予想レンジ: 85.10~87.80 円)

NZD/JPY

NZドル/円 7/4~8の主な推移



7/4 Monday	格付け会社S&Pが「ギリシャ債の借り換え(ロールオーバー)は選択的デフォルトに当たる公算が大きい」との見解を示したことでユーロ/円が急落すると、連れてNZドル/円も66.80円まで下げた(①)。
7/5 Tuesday	豪準備銀行(RBA)理事会での声明を受けてRBAの早期利上げ期待が後退すると、豪ドル売り・NZドル買いの流れとなり、NZドル/円はこのNZドル買いにつれて上昇した。なおNZドルが買われた背景には、朝方発表されたNZ経済研究所(NZIER)の第2四半期企業景況感が+27と前回(-27)より大幅に改善された事もあった模様。またNY市場では、NYダウ平均が6月1日以来となる12600台を突破すると、NZドル/円は一時67.32円まで上昇した(②)。
7/6 Wednesday	7日早朝、NZのケルマディック諸島での地震発生を受けてNZに津波警報が発令された事を受け、NZドル/円は66.65円まで急落(③)。ただその後津波警報は解除され、NZドル/円は反発した。
7/7 Thursday	米6月ADP全国雇用者数が事前予想を上回ったことを受けて時間外のNYダウ平均先物が急騰すると、NZドル/円は5月31日につけた年初来高値(67.41円)を超えて上昇した(④)。その後NZドル/円は67.70円まで上昇した。
7/8 Friday	市場では米6月雇用統計に対する期待からドル買い・円売りが先行し、NZドル/円はこの円売りに連れて、発表前に2009年5月以来の高水準となる67.83円まで上昇した。しかし米6月雇用統計の予想外に弱い結果を受け、ドル/円の急落につれてNZドル/円も一時66.98円まで下落(⑤)。ただその後、一時150ドル以上上げたNYダウ平均が下げ幅を縮小すると、NZドル/円は引けにかけて反発した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

上昇要因 (NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因 (NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

今週の見通し

今週14日、NZ第1四半期国内総生産 (GDP) の発表が予定されている。本来は先週7日発表予定であったが、5日にNZ統計局が発表延期を伝えたことで、今週の注目材料となっている。

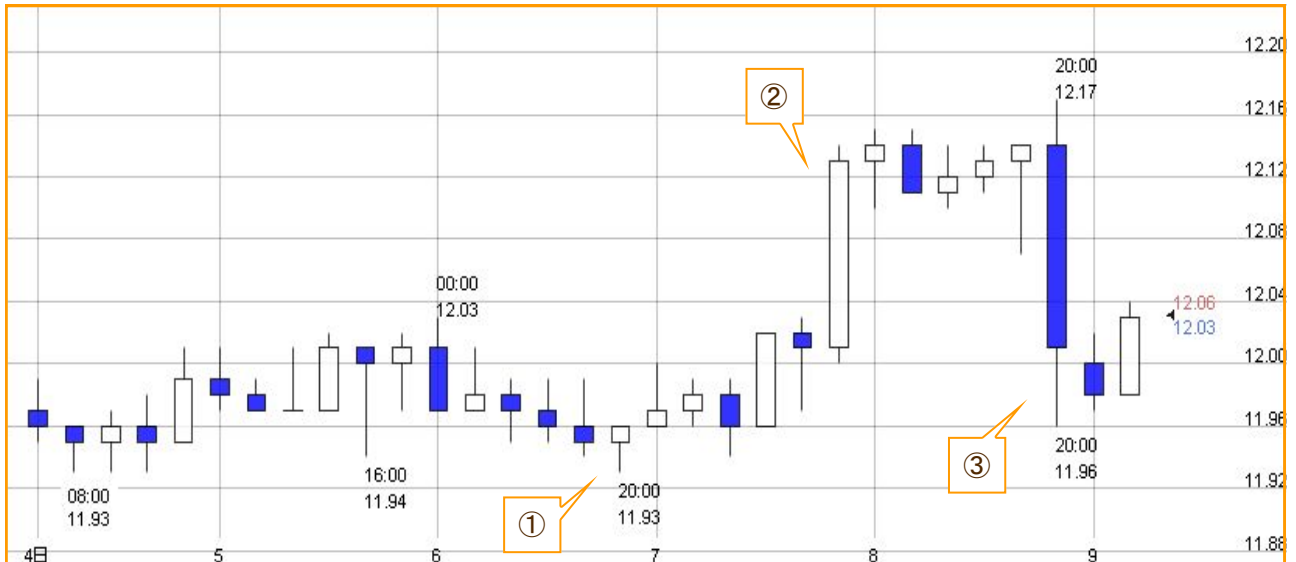
今年2月にNZを襲った地震の影響が懸念される中、本稿執筆時点での事前予想では前期比が+0.3%と、昨年第4四半期 (+0.2%) の伸び率をわずかに上回る見通しとなっている。今回のGDPが市場予想を上回る場合、NZドル/円は買い優勢となることも予想される。

一方、先週末の米6月雇用統計が予想よりも大幅に弱い内容となり、10日の英紙報道によりギリシャ国債の一部債務再編観測が浮上した。今週はこれらを理由に主要国での株安が予想され、NZドル/円は上値を押さえられる可能性がある。ただ、NZドル/円は米雇用統計にて、発表直後には急落したが比較的戻りも早く、下値は堅いと見られ、今週は全般的に身動きのとりづらい展開となる可能性もある。そのほか、今週から本格化する米企業決算や、13・14両日のバーナンキ米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長の議会証言にも、注目が集まりそうだ。(川畑)

(予想レンジ: 66.10~68.60円)

ZAR/JPY

ランド/円 7/4~8の主な推移



7/6 Wednesday	前日の格付け会社ムーディーズによるポルトガルの格下げ報道が蒸し返され、ポルトガル国債の利回りが急騰した事を背景に、欧州の信用不安が高まり欧州株が軟調に推移すると、リスク回避の動きからランド/円は11.93円まで弱含みで推移した(①)。
7/7 Thursday	米6月ADP全国雇用者数が予想を上回ったことを受けて時間外のNYダウ平均先物が急騰すると、ランド/円は12.15円まで上昇した(②)。
7/8 Friday	市場では米6月雇用統計に対する期待からドル買い・円売りが先行し、ランド/円はこの円売りに連れて、発表前に12.17円の高値をつけた。しかし米6月雇用統計の予想外に弱い結果を受け、ドル/円の急落につれてランド/円も一時11.96円まで急落(③)。ただその後、一時150ドル以上下げたNYダウ平均が下げ幅を縮小すると、ランド/円は12円台へと緩やかに値を戻した。

ZAR/JPY

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
- 主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・南アの利上げ観測の浮上
- ・日本の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷
- ・南アの利下げ懸念の浮上

今週の見通し

先週末の米6月雇用統計が予想よりも大幅に弱い内容となり、10日の英紙報道によりギリシャ国債の一部債務再編観測が浮上した。今週はこれらを理由に主要国での株安が予想され、ランド/円は上値の重い展開が予想される。テクニカル面から見ると、直近の安値である11.93円(7/3安値)を下抜け、上向きとなっている20日線(本稿執筆時点では11.87円)をも下抜ける場合、バンド下限(同、11.63円)を試す展開も予想される。そのほか、今週から本格化する米企業決算や、13・14両日のバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言にも、注目が集まりそうだ。(川畑)

(予想レンジ:11.70~12.10円)

経済指標カレンダー (7/11~14)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/11 (月)	21:15		日銀金融政策決定会合(~12日) (加) 6月住宅着工件数	— 18.36万件	— 18.15万件
7/12 (火)	15:00	○	(日) 日銀金融政策決定会合(11日~発表) (独) 6月消費者物価指数・確報 [前月比] (独) 6月消費者物価指数・確報 [前年比]	0.00-0.10% +0.1% +2.3%	— +0.1% +2.3%
	17:30	◎ ◎	(英) 6月消費者物価指数 [前月比] (英) 6月消費者物価指数 [前年比]	+0.2% +4.5%	+0.3% +4.5%
	17:30		(英) 6月小売物価指数 [前月比]	+0.3%	+0.3%
	17:30		(英) 5月商品貿易収支	-73.89億GBP	-74.50億GBP
	21:30	○	(米) 5月貿易収支	-437億USD	-442億USD
	21:30		(加) 5月国際商品貿易	-9億CAD	-7億CAD
	26:00	○	(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) FOMC議事録(6月21・22日分)	—	—
7/13 (水)	11:00	○	(中) 6月鉱工業生産[前年比]	+13.3%	+13.1%
	11:00	◎	(中) 第2四半期実質GDP[前期比]	+2.1%	—
	11:00	◎	(中) 第2四半期実質GDP[前年比]	+9.7%	+9.3%
	11:00	○	(中) 6月小売売上高[前年比]	+16.9%	+17.0%
	13:30		(日) 5月鉱工業生産・確報 [前月比] (日) 5月鉱工業生産・確報 [前年比]	+5.7% -5.9%	— —
	14:00		(日) 7月金融経済月報・基本的見解	—	—
	17:30	○	(英) 6月失業率	4.6%	4.7%
	17:30	○	(英) 6月失業保険申請件数	+1.96万件	+1.50万件
	18:00	○	(ユーロ圏) 5月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.4%	+0.4%
	21:30		(米) 6月輸入物価指数 [前月比]	+0.2%	-0.8%
	26:00	○	(米) 10年債入札(210億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) 6月月次財政収支	-576億USD	-650億USD
7/14 (木)	07:45	◎ ◎	(NZ) 第1四半期GDP [前期比] (NZ) 第1四半期GDP [前年比]	+0.2% +0.8%	+0.3% +0.5%
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	18:00		(ユーロ圏) 6月消費者物価指数・確報 [前月比] (ユーロ圏) 6月消費者物価指数・確報 [前年比]	±0.0% +2.7%	±0.0% —
	21:30	○ ○ ○ ○	(米) 6月生産者物価指数 [前月比] (米) 6月生産者物価指数 [コア:前月比] (米) 6月生産者物価指数 [前年比] (米) 6月生産者物価指数 [コア:前年比]	+0.2% +0.2% +7.3% +2.1%	-0.2% +0.2% +7.4% +2.2%
	21:30	◎ ◎	(米) 6月小売売上高 [前月比] (米) 6月小売売上高 [前月比:除自動車]	-0.2% +0.3%	±0.0% +0.1%
	21:30	◎	(米) 7/8までの週の新規失業保険申請件数	41.8万件	—
	23:00		(米) 5月企業在庫 [前月比]	+0.8%	+0.6%
	26:00	○	(米) 30年債入札(130億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (7/15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/15	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (6月13日・14日分)	—	—
(金)	18:00		(ユーロ圏) 5月貿易収支	-41億EUR	—
	21:30	◎	(米) 6月消費者物価指数 [前月比]	+0.2%	-0.1%
		◎	(米) 6月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.3%	+0.2%
		◎	(米) 6月消費者物価指数 [前年比]	+3.6%	+3.6%
		◎	(米) 6月消費者物価指数 [コア:前年比]	+1.5%	+1.6%
	21:30	○	(米) 7月ニューヨーク連銀製造業景気指数	-7.79	4.0
	22:15	◎	(米) 6月鉱工業生産 [前月比]	+0.1%	+0.4%
	22:15		(米) 6月設備稼働率	76.7%	77.0%
	22:55	◎	(米) 7月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	71.5	72.5

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。